

Nippon Electric Glass Report

第89期 年次報告書 2007年4月1日～2008年3月31日



ハイテクガラスで未来をつくる

日本電気硝子株式会社

To Our Shareholders/Consolidated Financial Highlights

株主の皆さまへ／連結財務ハイライト



社長
井筒 雄三

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当2007年度におきましては、主力の薄型パネルディスプレイ（FPD）用ガラス事業が全体を押し上げ、過去最高の業績を記録することができました。これもひとえに日頃の皆さまのご支援の賜物と感謝いたします。

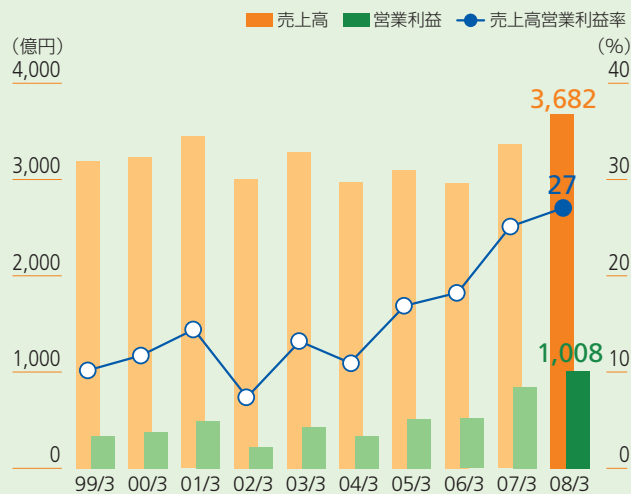
期末配当金につきましては、期初予想より1円増配し、1株につき5円とすることで株主総会のご承認をいただき、この結果、年間配当金は1株につき9円となりました。

2008年度も先行き楽観を許さない状況が続きますが、さらなる成長軌道を描くべく、全社を挙げて努力してまいります。

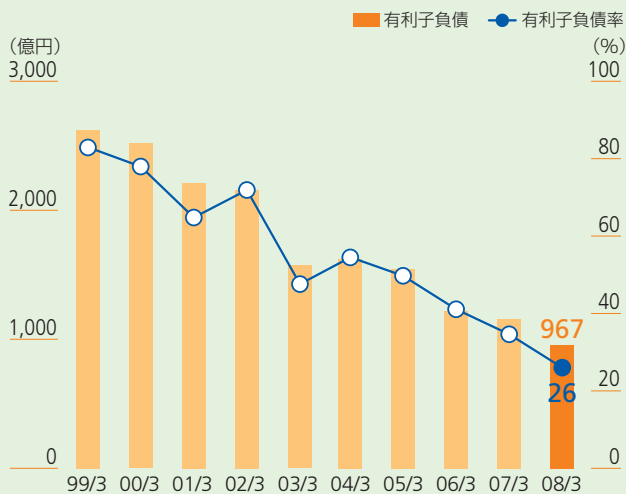
株主の皆さまには、何とぞ倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2008年6月

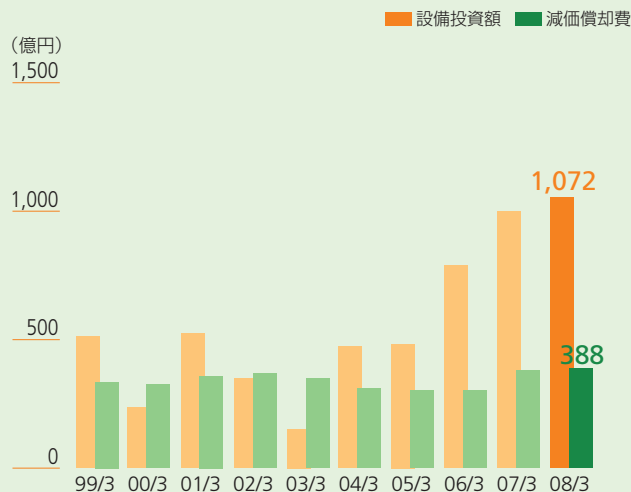
売上高・営業利益・売上高営業利益率



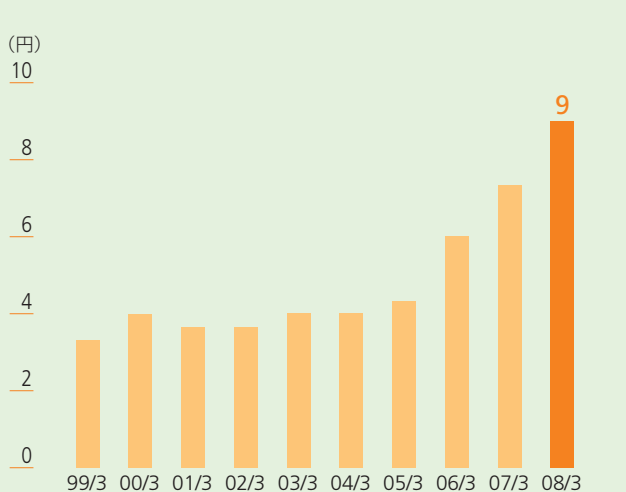
有利子負債・有利子負債率（有利子負債／売上高）



設備投資額・減価償却費



1株配当額



(注) 2005年3月10日付にて株式分割(1:2)を、また2007年4月1日付にて株式分割(1:1.5)をそれぞれ実施しました。各期を比較しやすいよう、2007年4月1日の分割後の基準に基づき調整の上、記載しています。

主力のFPD事業を軸に 積極的な事業展開により、 成長を目指してまいります。



社長 井筒 雄三

Q 2007年度を振り返ると、
どのような1年でしたか。

A 07年度は、過去数年にわたる事業構造の転換期を経て、薄型パネルディスプレイ（FPD）関連事業を軸にした成長路線へと歩を進めた年であったと言えます。

良好な市場環境の下、販売が増加するとともに生産性改善が進んだことが寄与し、おかげさまでもちまして、売上、利益ともに過去最高の業績を

更新することができました。

これを新たな出発点として、08年度もさらなる成長を目指してまいります。

Q FPD分野で積極的な設備投資が
続いていますね。

A FPD用ガラス市場は、薄型TVやパソコン用のパネル需要の拡大を背景に二ケタ成長が続いています。当社では、お得意先からの旺盛な需要

に應えるため、ここ数年、FPD分野の設備増強と生産性改善のために減価償却を上回る設備投資を行っています。08年度も既存設備の改善と新たな設備の稼動を通じて、市場の成長に見合った能力の拡充を図る予定です。

Q 基板ガラスの大型化や 環境に優しいガラスへの 対応状況はいかがですか。

A 大型FPDパネルを効率的に生産するため基板ガラスの大型化が進展しています。液晶を例にとると、既に量産が始まった第7.5世代や第8世代基板ガラスに続き、近い将来1辺が3mを超える第10世代が登場します。当社は第8世代までの設備対応を完了しており、引き続き、より大型サイズへの準備を進めてまいります。

環境対応の面では、昨年末に稼動させた新設備でグリーンガラス（環境に影響を与える物質を用いないよう配慮したガラス）の量産を開始しました。今後、溶融炉の定期修繕や新設備建設のタイミングをとらえ、グリーンガラス化を進める予定です。

Q Non-FPD分野について、 今後の方針を教えてください。

A 当社は、今後もFPDをはじめ映像デバイス分野を軸にした経営を展開していきたいと考えておりますが、特定の事業領域に偏らず安定した成長を実現するため、FPD以外の分野の育成にも注力してまいります。

ガラスファイバでは、自動車のエンジン周りなどの部品に用いられる高機能樹脂の強化用途を主力製品として推進し、設備を増強したマレーシアでは生産性向上を図り、また国内ではより高技術・高付加価値の製品にシフトしてまいります。

電子部品用ガラスでは、光通信関連分野や、デジタルカメラなどに用いられるイメージセンサ用ガラス・光学レンズ関連分野の強化を図るとともに、薄膜などのNon-ガラス技術を活用した製品やタッチパネル用強化ガラスなど、先端技術分野向け製品の開発に力を入れてまいりたいと思います。

結晶化ガラスについても、IH／ガス調理器のトッププレート用やビル・商業施設などの防火設備用のほか、耐熱性などの優れた特性を活かした新

しい用途の開発に取り組んでまいります。

Q 将来をにらんだ研究開発活動の 取り組み状況はいかがですか。

A 当社は、昨年秋の展示会で薄さ50～100ミクロンの超薄板ガラスを出展しました。FPD分野ではパネルの薄型・軽量化のため、基板ガラスの薄板化のニーズが高まっていくものと予想されます。当社は、薄板化に適した製造技術を有するメリットを活かし、超薄板ガラスの開発を推進しています。ガラスのイメージを超えた質感や柔軟性を持つ超薄板ガラスは、単独での利用のみならず、例えば樹脂と組み合わせることでお互いの長をさらに引き出すことが期待でき、有機ELをはじめとする次世代のディスプレイに止まらず、様々な分野への応用を図っていきたいと考えています。



薄さ100ミクロンの超薄板ガラス

Q 先ごろ実施した公募増資の 背景や目的は何ですか。

A 当社は、CRTバルブ中心の会社からFPD用ガラスを主力とする会社大きく変貌をとげました。今後の成長に向けて、当社の状況をあらためて投資家の皆さまに広くご理解いただくとともに機動的な投資とそれに耐えうる財務基盤の構築のため、今年2月に公募増資を行い、275億円を調達させていただきました。全額を設備投資のために用いております。

Q 有利子負債削減の取り組み状況を 教えてください。

A 経営環境の変化に耐えうる強固な財務体質を構築するため、1999年度から有利子負債の削減に取り組んでいます。07年度までの第三次有利子負債削減3ヵ年計画の下では、585億円を削減することができ、当社が有利子負債削減の物差しにしている連結売上高に対する有利子負債比率も26%に低下しました。タイムリーな設備投資を

行いつつ、今後も有利子負債の削減に努めてまいりたいと存じます。

**Q このたび業績予想の開示方針を
発表された意図を教えてください。**

A 事業を取り巻く環境の変化はめまぐるしく、半年から1年先の業績を的確に予想することは困難であり、時として混乱を招く場合があります。そこで、当社流の開示方針として、確度の高い3ヶ月先の予測をタイムリーにお知らせすることが皆さまにより有用な業績情報をお届けすることにつながると考え、四半期業績見込みの早期開示と充実を図ることにしました。

**Q 最後に株主の皆さまをはじめ
ステークホルダーへメッセージを
お願いします。**

A 企業の社会的責任（CSR）の履行につきましては、環境との調和・障害者雇用・地元貢献を中心テーマに据え、当社としてなすべきことを

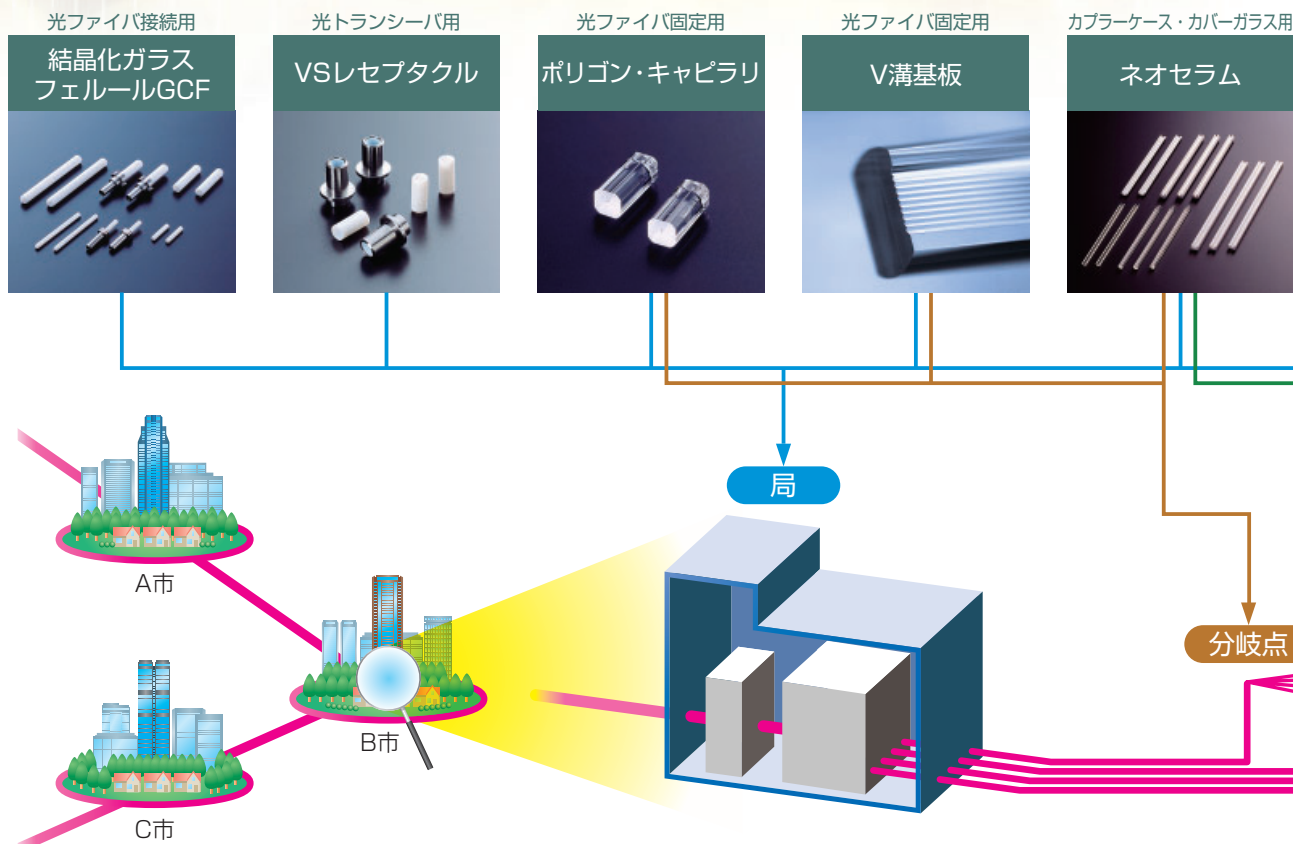


確実に実行してまいります。

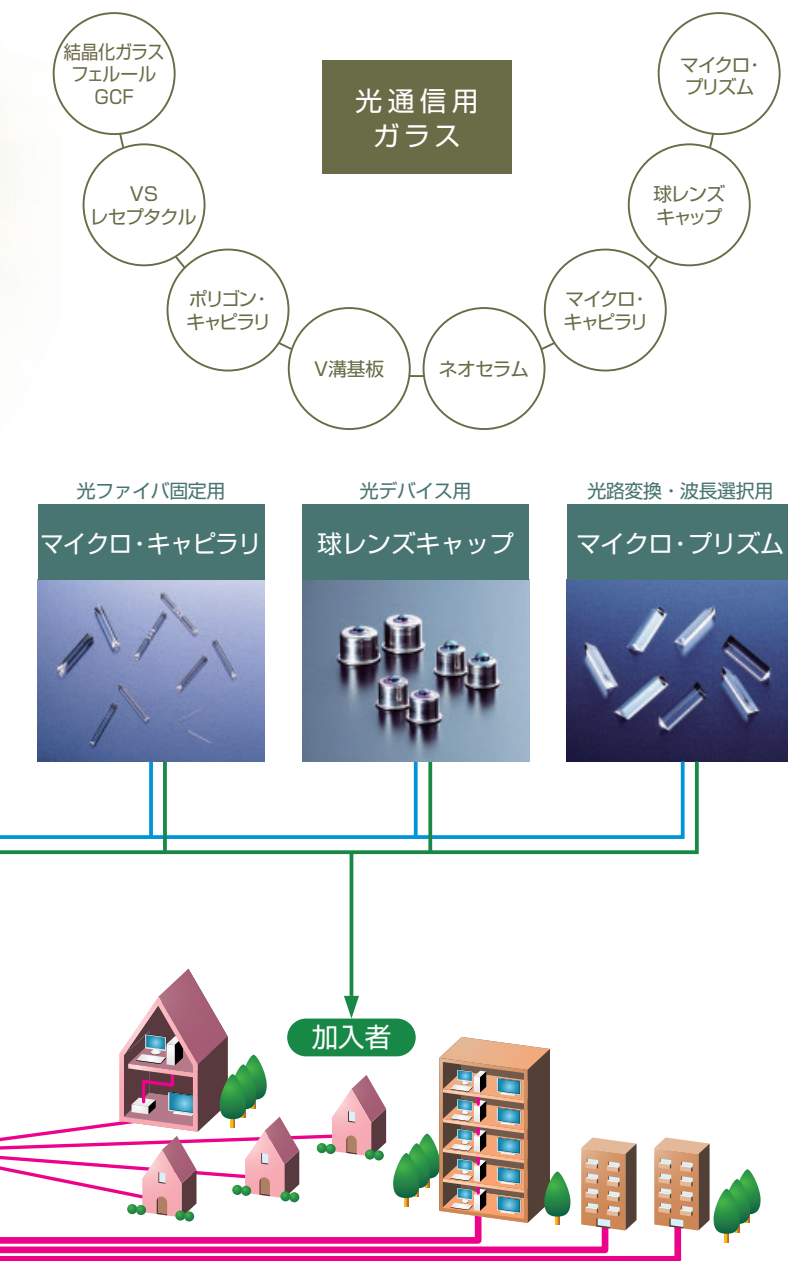
株主の皆さまへの利益還元でございますが、当社は、長期安定配当を基本に置き、着実な利益還元を実施してまいりました。3年前との比較では、この間の株式分割の効果を考慮すると、1株当たりの配当額は実質的に2倍以上に増加しております。さらなる成長に向け高水準の資金需要が予想されますが、財務状況を勘案しながら、今後も安定した利益還元を続けてまいりたいと存じますので、何とぞご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

光通信用ガラスは 情報化社会の発展に貢献しています。

動画や音楽など大容量の情報データを高速で伝える光通信には、当社の高度なガラス材料設計技術・成形技術・精密加工技術が活かされています。たとえば、光ファイバを接続する結晶化ガラスフェルールをはじめ、固定用の各種キャピラリー、光信号の送受信装置に用いられる球レンズやマイクロ・プリズムなど、さまざまな部品を開発・提供しています。



光通信ネットワークイメージ図

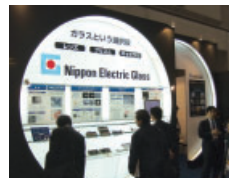


TOPICS

さまざまな展示会に出展

第8回ファイバーオプティクスEXPO (FOE2008)

2008年1月に東京ビッグサイトで開催された「FOE2008」に、球レンズキャップなどの光通信部品や、世界最小サイズのプリズムを出展いたしました。特に世界最小プリズムは大きな話題を集めました。



会期 2008年1月16～18日

会場 東京ビッグサイト

Optical Fiber Communication Conference and Exposition (OFC2008)

2008年2月にアメリカ・サンディエゴで開催された「OFC2008」に出展いたしました。本展示会では、当社の球レンズキャップや、VSレセプタクルなどを中心に各種光通信部品を展示いたしました。



会期 2008年2月26～28日

会場 San Diego Convention Center

障害者雇用を促進しています

当社グループでは、障害者雇用をCSRの中心テーマの一つと捉えております。

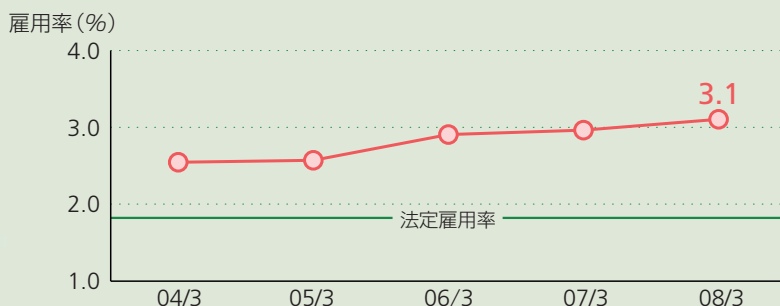
1980年には、障害者雇用の促進を目的とした子会社（特例子会社）を全国で6番目に設立し、雇用機会の拡大を進めてまいりました。また、障害を持つ方にとっても働きやすい職場環境の整備に当社グループ全体で取り組んできております。

2008年3月末現在、当社グループの障害者雇用率は3.1%と、法定雇用率(1.8%)を大きく上回っております。

今後は就業機会が少ないと言われる知的障害を持つ方々の雇用拡大にも積極的に取り組み、障害を持つ方々への幅広い雇用機会の提供に努めてまいります。

CSR Report

当社グループの障害者雇用状況の年度推移



子育てサポートを推進しています

当社はこのたび、「次世代育成支援対策推進法」に基づく子育てサポート企業としての認定を受けました。これは、当社における過去3年間の次世代育成支援の取り組みが公的に評価されたものです。今後も新たな行動計画を策定し、育児と仕事が両立できる環境作りに努めていくと同時に、子育てに対する理解を深める活動を進めてまいります。



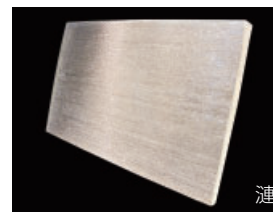
TOPICS
1

インテリア用にレイヤードガラス2種を発売

半透明の立方体ガラス「氷角^{ひょうかく}」は、側面に幾重にも重なる繊細な線を刻む趣あるガラス塊です。板状のガラス「連^{れん}」は、さざなみ状の細かい凹凸があり、自然な風合いをもっています。いずれも照明とのコンビネーションでさまざまな表情に変化するインテリア空間に最適なガラス素材です。今年3月に東京ビッグサイトで開催された店舗総合見本市「JAPAN SHOP 2008」に出展し、来場者の高い関心をいただきました。



氷角



連

TOPICS
2

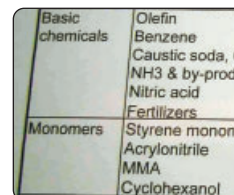
超低反射膜を開発

反射率がわずか0.08%の超低反射膜を開発しました。テレビ画面などに照明が映り込み、映像や文字が見づらくなることがありますが、この超低反射膜を施したガラスでは映り込みがほとんどありません。テレビや携帯電話のディスプレイ、デジタルカメラのレンズなどへの応用が期待されます。

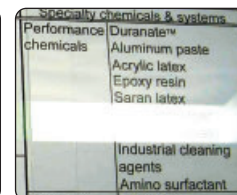
「超低反射膜」の効果

(蛍光灯の下でガラス越しに文字を見た場合)

超低反射膜あり



通常のガラス

TOPICS
3

四半期業績見込みの開示を充実

トップインタビューの中（6ページ）でご説明したとおり、投資家や株主の皆さまにより迅速・適切な業績情報をご提供するため、証券取引所が定める決算短信での業績予想の開示に加えて、右の要領により、四半期業績見込みの早期開示・充実を図ることにしました。また、08年度の中間・通期の業績予想をレンジ形式で開示いたしました。

予定時期	内 容	
	当期（累計ベース） 業績見込み（数値開示）	次期（四半期ベース）見通し （売上高・営業利益をレンジ開示）
6月下旬	第1四半期	第2四半期
9月下旬	第2四半期	第3四半期
12月下旬	第3四半期	第4四半期
3月下旬	通期	第1四半期

Review of Operations

部門別の概況

情報・通信関連部門

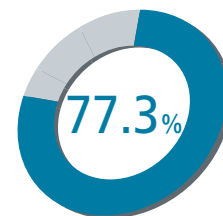
ディスプレイ用 ガラス



FPD用ガラス：液晶用基板ガラスは、既存設備の生産性改善に加え昨年12月に新設備を稼働させ需要増に対応した結果、前期に比べ販売を伸ばしました。PDP用基板ガラスや液晶バックライト用ガラスは、価格下落などの影響を受け計画を下回りました。

CRT用ガラス：市場縮小と当社グループの能力減少（マレーシア子会社の生産設備削減、インドネシア子会社の解散決定）により販売が減少しました。

売上高構成比



■ 主要製品

薄型パネルディスプレイ (FPD) 用ガラス

液晶ディスプレイ (LCD) 用ガラス

プラズマディスプレイ (PDP) 用ガラス

○ 基板ガラス

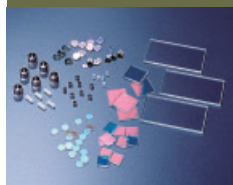
○ バックライト用ガラス

○ 基板ガラス

○ ガラスペースト

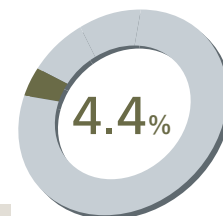
ブラウン管 (CRT) 用ガラス

電子部品用 ガラス



イメージセンサ用ガラスがデジタルカメラや携帯電話向けに販売が堅調であったことなどから、売上が前期を上回りました。

売上高構成比



■ 主要製品

光関連ガラス

○ 光ファイバ接続用キャピラリ・フェルール

○ 球レンズ部品

○ 非球面レンズ用硝材<マイクロ・プリフォーム>

電子デバイス用ガラス

○ 粉末ガラス ○ 板ガラス ○ 管ガラス

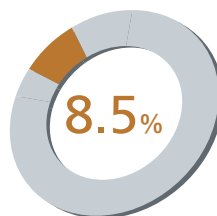
その他部門

ガラスファイバ



自動車部品向け高機能樹脂強化用ガラスファイバの需要増に対し、昨年7月にマレーシア子会社で新設備を稼動させました。これが期後半に寄与したことなどから販売が増加しました。

売上高構成比



主要製品

ガラスファイバ

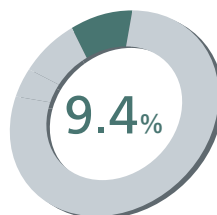
- 機能樹脂用チョップドストランド
- プリント配線板用ヤーン
- 強化プラスチック用ロービング
- 耐アルカリ性ガラスファイバ

建築・耐熱・照明 薬事用その他



建築基準法改正に伴う工事認可遅れの影響などから建築用ガラスの販売が減少したほか、全般的に販売が伸び悩み売上が前期を下回りました。

売上高構成比



主要製品

建築用ガラス

- ガラスブロック
- 結晶化ガラス建材<ネオパリエ>・<ラピエ>
- 防火設備用ガラス<ファイアライト>
- インテリア/エクステリア用ガラス
- 放射線遮へい用ガラス

耐熱ガラス

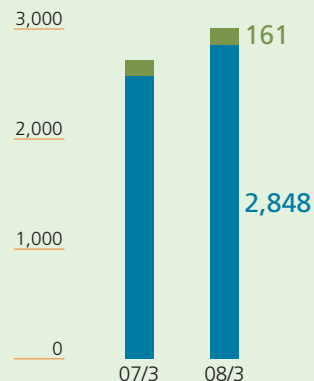
- 超耐熱結晶化ガラス<ネオセラム>
- 耐熱ガラス<ネオレックス>

照明用ガラス 医薬・理化学用ガラス
魔法びん用ガラス ガラス製造機械

部門別売上高

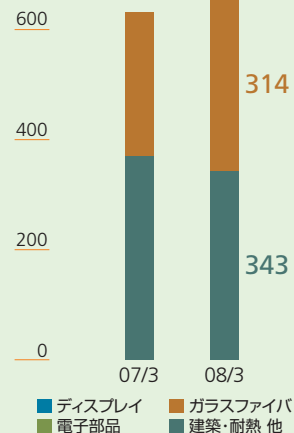
情報・通信関連部門

4,000 (億円)



その他部門

800 (億円)



Consolidated Financial Statements

連結財務情報

当期：2008年3月31日現在
前期：2007年3月31日現在

連結貸借対照表

(単位：億円)

科 目	前 期	当 期
資産の部		
流動資産	2,087	2,388
現金・預金	853	1,010
受取手形・売掛金	728	848
たな卸資産	397	397
繰延税金資産	88	100
その他	24	38
貸倒引当金	△ 6	△ 5
固定資産	3,109	3,491
有形固定資産	2,746	3,185
建物・構築物	394	444
機械装置・運搬具	1,946	2,405
土地	153	143
建設仮勘定	218	162
その他	34	29
無形固定資産	8	8
投資その他の資産	354	297
投資有価証券	240	192
繰延税金資産	78	69
その他	39	40
貸倒引当金	△ 1	△ 4
投資損失引当金	△ 2	—
資産合計	5,197	5,880

科 目	前 期	当 期
負債の部		
流動負債	1,983	1,896
支払手形・買掛金	473	460
短期借入金	723	676
社債（1年以内償還予定）	200	—
未払金	307	351
未払法人税等	158	296
その他の引当金	6	3
その他	114	107
固定負債	448	506
社債	200	200
長期借入金	39	91
特別修繕引当金	148	176
その他の引当金	16	17
その他	43	21
負債合計	2,431	2,402
純資産の部		
株主資本	2,636	3,394
資本金	183	321
資本剰余金	201	345
利益剰余金	2,259	2,728
自己株式	△ 8	△ 0
評価・換算差額等	82	45
その他有価証券評価差額金	69	36
為替換算調整勘定	13	8
少数株主持分	46	38
純資産合計	2,765	3,477
負債及び純資産合計	5,197	5,880

(注) 各表の記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しています。

当期：2007年4月1日から2008年3月31日まで

前期：2006年4月1日から2007年3月31日まで

連結損益計算書

(単位：億円)

科 目	前 期	当 期
売上高	3,364	3,682
売上原価	2,252	2,415
売上総利益	1,111	1,266
販売費及び一般管理費	266	258
営業利益	845	1,008
営業外収益	30	28
受取利息及び受取配当金	16	12
その他	14	15
営業外費用	62	67
支払利息	13	14
たな卸資産廃棄損	5	16
固定資産除却損	11	14
その他	30	21
経常利益	814	969
特別利益	10	31
前期損益修正益	7	7
投資有価証券清算益	—	20
その他	3	3
特別損失	190	96
固定資産除却損	9	17
固定資産臨時償却費	17	—
減損損失	150	63
投資有価証券評価損	—	12
その他	12	2
税金等調整前当期純利益	633	904
法人税、住民税及び事業税	161	382
法人税等調整額	71	16
少数株主損失	△ 2	△ 0
当期純利益	403	506

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

科 目	前 期	当 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,077	1,024
税金等調整前当期純利益	633	904
減価償却費	380	388
減損損失	150	63
売上債権の増加額	△ 11	△ 130
たな卸資産の増減額(△増加額)	19	△ 1
仕入債務の増加額	74	23
その他	△ 169	△ 223
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 959	△ 919
固定資産の取得による支出	△ 1,004	△ 908
その他	44	△ 11
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 94	55
長短借入金の純増減額(△減少額)	△ 65	5
社債の償還による支出	—	△ 200
株式の発行による収入	—	275
その他	△ 29	△ 25
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	△ 3
現金及び現金同等物の増加額	48	156
現金及び現金同等物の期首残高	863	853
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 57	—
現金及び現金同等物の期末残高	853	1,010

Consolidated Financial Statements

連結株主資本等変動計算書

当期（2007年4月1日から2008年3月31日まで）

（単位：億円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2007年3月31日残高	183	201	2,259	△ 8	2,636
当期中の変動額					
新株の発行	137	137	—	—	275
剰余金の配当	—	—	△ 38	—	△ 38
当期純利益	—	—	506	—	506
自己株式の取得・処分	—	6	—	7	13
その他	—	—	△ 0	—	△ 0
株主資本以外の項目の当期中の純変動額	—	—	—	—	—
当期中の変動額合計	137	143	468	7	757
2008年3月31日残高	321	345	2,728	△ 0	3,394

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	69	13	82	46	2,765
当期中の変動額					
新株の発行	—	—	—	—	275
剰余金の配当	—	—	—	—	△ 38
当期純利益	—	—	—	—	506
自己株式の取得・処分	—	—	—	—	13
その他	—	—	—	—	△ 0
株主資本以外の項目の当期中の純変動額	△ 32	△ 4	△ 37	△ 7	△ 45
当期中の変動額合計	△ 32	△ 4	△ 37	△ 7	712
2008年3月31日残高	36	8	45	38	3,477

Stock Information

株式の状況 (2008年3月31日現在)

株式に関する事項

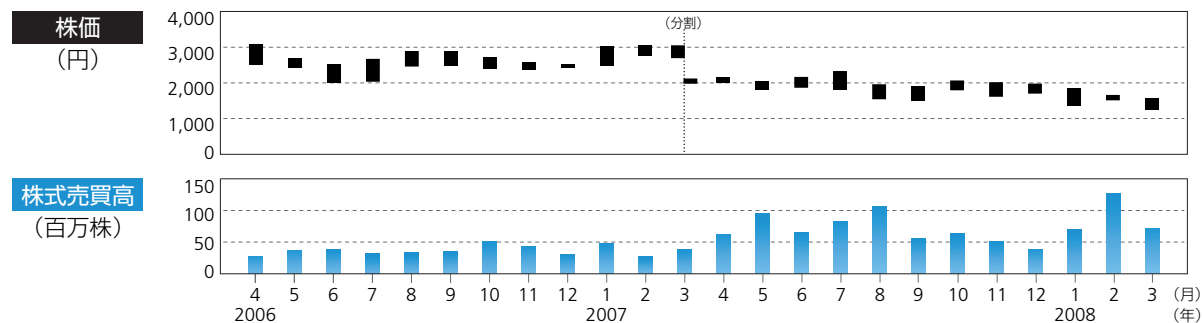
発行可能株式総数	1,200,000,000株
発行済株式総数	497,616,234株
単元株式数	1,000株
株主数	13,841名

大株主

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
日本電気株式会社	64,828	13.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口) ※	55,780	11.2
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	26,351	5.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	24,895	5.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	18,798	3.8
ニプロ株式会社	17,824	3.6
株式会社滋賀銀行	8,089	1.6
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	7,922	1.6
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	7,872	1.6
大和証券エスエムビーシー株式会社	7,754	1.6

(注) ※日本電気株式会社が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものであり、その議決権は同社が実質的に保有しています。

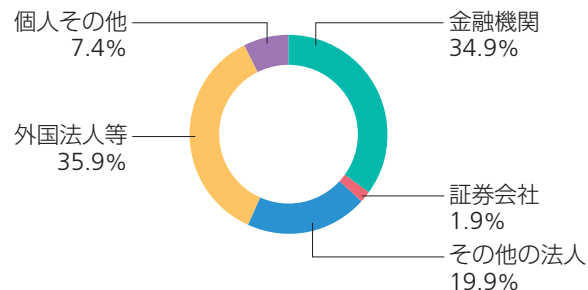
株価・株式売買高の推移



- (注) 1. 株価及び株式売買高は、東京証券取引所におけるものです。
2. 2007年4月1日付をもって、1株につき1.5株の割合で株式分割（権利落日：2007年3月27日）を行っています。
3. 2008年2月14日を払込期日として公募増資を行い、普通株式1,830万株を発行しました。

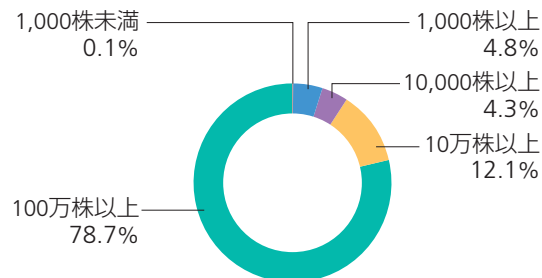
株式分布状況

所有者別



(注) 「金融機関」には、その他の法人が退職給付信託に拠出した株式が含まれています。

所有株数別



Corporate Profile

会社概要

会社概要

(2008年3月31日現在)

設 立	1944年（昭和19年）10月31日
商 号	日本電気硝子株式会社
本 社	滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号 TEL 077（537）1700（代表） FAX077（534）4967
資 本 金	32,155百万円
従業員数	1,938名
営 業 所	大阪・東京
事 業 場	大津・藤沢・滋賀高月・能登川・若狭上中・ 精密ガラス加工センター
事業内容	特殊ガラス製品の製造・販売

取締役および監査役／執行役員

(2008年6月27日現在)

取 締 役 会 長 （代表取締役）	森	哲	次
社 長 （代表取締役）	井 筒	雄	三
取 締 役	加 藤		博
取 締 役	稲 田	勝	美
取 締 役	有 岡	雅	行
取 締 役	阿 閉	正	美
取 締 役	山 本		茂
取 締 役	稲 増	耕	一
取 締 役	伊 藤	修	二
常 勤 監 査 役	安 田		斎
常 勤 監 査 役	宮 元	信	廣
監 査 役	竹 内	卓	郎
監 査 役	岡 田	不	二 郎
社 長 執 行 役 員	井 筒	雄	三
専 務 執 行 役 員	加 藤		博
専 務 執 行 役 員	稲 田	勝	美
専 務 執 行 役 員	有 岡	雅	行
専 務 執 行 役 員	阿 閉	正	美
常 務 執 行 役 員	山 本		茂
常 務 執 行 役 員	稲 増	耕	一
常 務 執 行 役 員	伊 藤	修	二
執 行 役 員	藤 川	淳	二
執 行 役 員	大 森		喬
執 行 役 員	三 宅	雅	博
執 行 役 員	北 川		保
執 行 役 員	阿 久 根	孝	男
執 行 役 員	大 工	信	隆
執 行 役 員	石 谷	健	二
執 行 役 員	横 田	雅	則
執 行 役 員	木 下	芳	久
執 行 役 員	大 松	純	夫
執 行 役 員		元	春

海外ネットワーク

電気硝子（上海）広電有限公司



坡州電気硝子株式会社



日本電気硝子（韓国）株式会社



福州電気硝子有限公司



福建電気硝子有限公司

Nippon Electric Glass America, Inc.

Techneglas, Inc.

台湾電気硝子股份有限公司



Nippon Electric Glass (Malaysia) Sdn. Bhd.



ホームページ
リニューアルのご案内



最新のトピックスをはじめ、業績報告や会社情報などさまざまな情報を今後もよりわかりやすくご案内してまいります。

<http://www.neg.co.jp/>

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会関係 毎年3月31日
期末配当金支払関係 毎年3月31日
中間配当金支払関係 毎年9月30日

上場証券取引所 東京および大阪（いずれも市場第一部）

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付および電話照会先)
東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701)
住友信託銀行株式会社証券代行部
(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417
(その他のご照会) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL)
<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

同 取 次 所 住友信託銀行株式会社の全国各支店

公 告 の 方 法 日本経済新聞に掲載



～単元未満株式を保有されている株主の皆さまへ～

当社では単元未満株式の買取請求（保有の単元未満株式の買取りを当社に請求）および買増請求（保有の単元未満株式に対して1単元（1,000株）に不足する株式の売渡しを当社に請求）制度を導入しており、上記株主名簿管理人事務取扱場所・同取次所で取り扱っております。今年の5月1日からいずれも手数料が無料になりましたので、この機会にご利用ください。

ただし、証券保管振替制度をご利用の方はお取引の証券会社などにご請求ください。その場合は証券会社などの手数料が発生することがあります。